

2025.1.18 将棋講座 第7回

数の攻めで寄せる

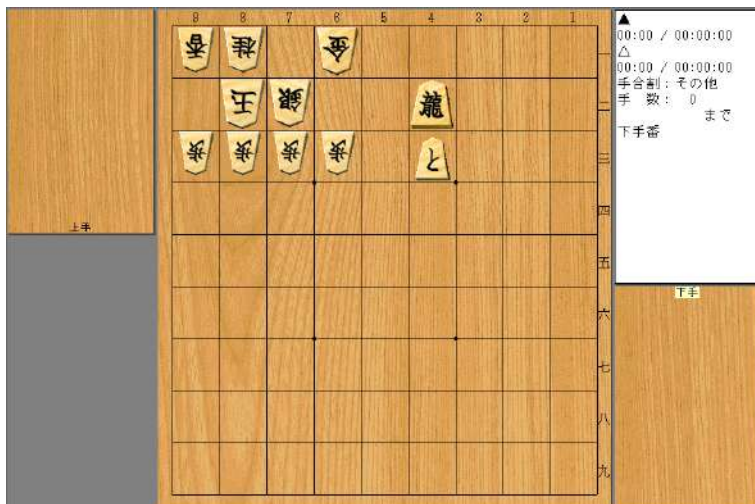


●寄せは俗手で

こちらが勝勢で相手の玉を寄せる場合は、派手な手は要りません。俗手でせまられるのが相手は困ります。その俗手の練習をしていきます。

●数の攻め

まず、数の攻め。これは将棋における基本の考え方です。ある地点で自分の数が多いように攻めていきます。ここでは寄せにおける数の攻めを解説していきます。



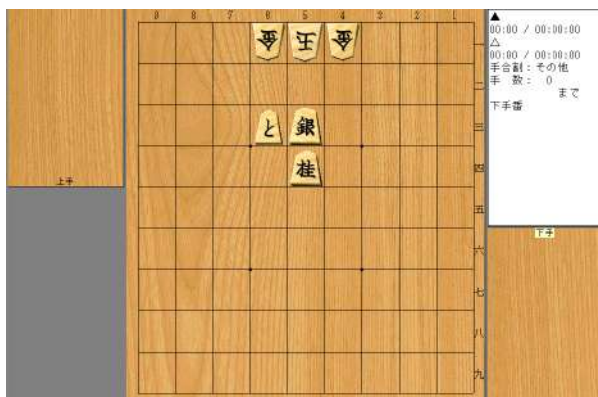
左の図では、5二の地点を攻めたい。なぜなら攻め方の駒が二枚効いているからです（4二竜と4三と金）。対して受け方の駒は金一枚しか効いていません。こんな場合は、5二の地点に駒をぶつけていくのが良い攻めになります。左の図では結果的に金が金と交換になります。4三のと金が金だったとしても、5二に駒をぶつけていくことにより金がさばけます。

駒の利きが、攻2守1=破れる、攻1守2=破れない、攻2守2=破れない

最初のうちは攻めと守りの駒の利きが分からないと思います。その場合は指で数えて構いません。

そのうちに頭の中で瞬時に利きを数えられるようになります。

●練習問題 （どの地点が急所か考えてみてください。）



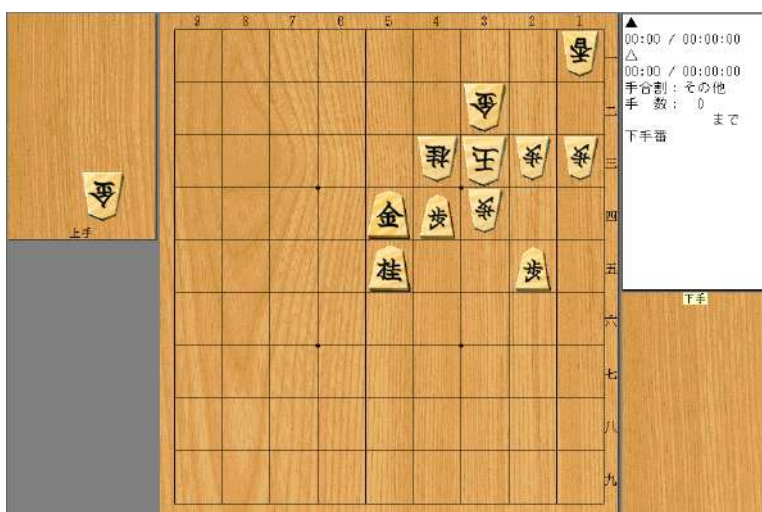
●持ち駒を地点に打ち込んで利きを逆転させる

攻2守2＝破れないと言いましたが、実はこれを攻2守1に変えてしまう手段があります。それは持駒をその地点に投入すること。なぜ、それで利きが逆転するのでしょうか？



左の図では、4三の地点が急所です。現状のお互いの利きを数えてみると攻3守3です。持駒がなければ破れません。しかし持ち駒があるとそれを4三に打ち込んで破れます。

これはなぜでしょうか？
次の図をみてください。



左の図は、4三の地点に持駒の金を打って△同桂と取らせた局面。また利きを数えてみてください。今度は攻3守2になっています。

つまり相手の利きを持駒を地点に投入することによって-1 することができたわけです。

難しい考え方なので練習問題を解いていきましょう。

●練習問題 (急所の地点の攻めと守りの利きを考える)

